

高遠旅石工たちの幕末

時に託された想い

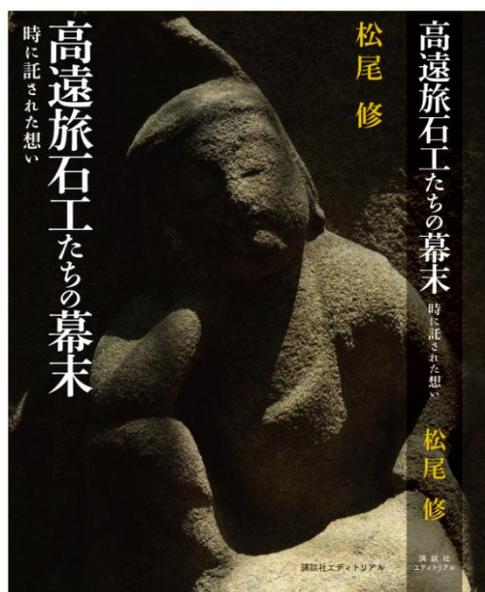
松尾
修
著

江戸時代、信州高遠藩は小藩であり、山間地のため耕作地も少なく、農民の生活は困窮を極め、藩財政も非常に苦しいものでした。藩は政策として、農民達に石工となって旅稼ぎをすることを奨励しました。

高遠藩領内出身の石工は「高遠石工」と呼ばれ、石材加工の優れた技術を持っていました。彼らは出稼ぎで全国各地に赴き、石仏や石塔、石橋、鳥居、石垣など様々な石造物を造りました。高遠石工の銘が残っている石造物は、北は青森から南は山口まで広く存在が確認されています。

高遠石工の石彫技術は高く、石仏を始めとする彫刻作品に見られる芸術性は現代においても高く評価されております。さらに、彼らは石積み技術にも長けており、幕末という歴史的なダイナミズムの中で、東京都品川の「お台場（江戸湾海上砲台）」や長野県佐久市の「龍岡五稜郭」などの大規模石造物の建設にも携わり、重要な役割を果たしています。

物語は、八ヶ岳山麓に実在する「人頭蛇身仏」の謎解きから、過去の「高遠石工」の歴史を探っていくというミステリータッチの展開となっており、ハードな石工の業績を縦糸に、男女の儂い恋愛を横糸に硬軟織り交ぜながら、かつ人間関係の「縁」を過去と現在にリンクさせながらのストーリー構築となっています。



四六判（上製本）

256 ページ

定価 1,700 円（税抜）

発行 講談社エディトリアル

協賛 伊那市観光株式会社

（社）高遠石工研究センター

後援 伊那市 伊那市観光協会

信濃毎日新聞社 中日新聞社

長野日報社 伊那ケーブルテレビジョン(株)

伊那市有線放送農業協同組合

平成28年9月2日発行予定!!

【 注文先 】

◆「高遠旅石工たちの幕末」出版委員会事務局（高遠さくらホテル内伊那市観光株）

〒396-0214 伊那市高遠町勝間 217 番地 ☎ 0265-94-6001 FAX 0265-94-3123

◆アマゾン

●著者紹介●

松尾 修

1960年福岡県北九州市生まれ。国土交通省中部地方整備局より岐阜県大垣市役所に出向し、現「技監」。

登山歴は30年を越え、千種アルパインクラブ(名古屋市)に所属し、年間を通じて登山活動をしている。また、信州を題材にした小説を執筆しており、著書に「竹澤長衛物語—南アルプス開拓の父」（山と溪谷社）がある。